2025年9月期決算説明会

2025年11月14日

富士製薬工業株式会社

東証プライム：4554

中期経営計画初年度は順調な滑り出し
女性医療・BSなどが貢献し、売上高・営業利益ともに過去最高を記録

25/9期

- 売上・営業利益ともに二桁成長
- 営業利益は28.6%増
  新製品の販売拡大、製品ミックスによる粗利益率の改善が、利益成長を後押し
- 累進配当政策を導入しており、25/9期の1株当たり配当金は45.5円を予定

26/9期

- 女性医療・バイオシミラー・グローバルCMOの拡大継続を見込む
- 新薬アリッサは着実に自力をつけ、12月以降の処方制限解除を皮切りにさらなる拡大を図る
- バイオシミラー3製品の薬価収載、販売に向けて準備を進めていく

本日のアジェンダ

01　2025年9月期連結決算概要

02　2026年9月期連結業績予想

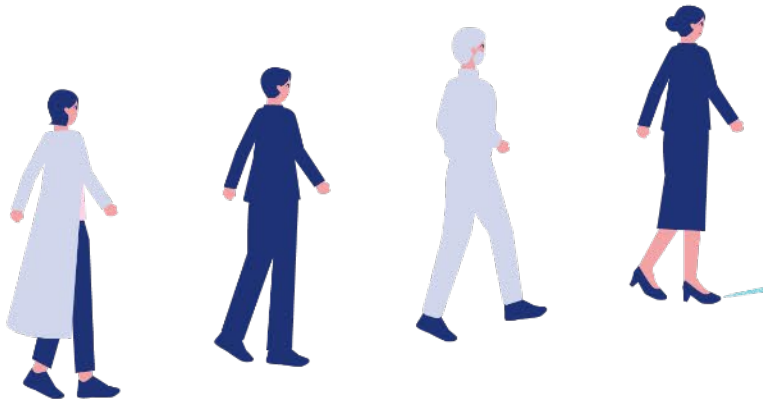
03　注力事業トピックス

04　Q&A

Appendix

01

2025年9月期連結決算概要



売上・営業利益ともに二桁成長

（単位：百万円）

	24/9期 実績	25/9期 実績	前期比 増減額	前期比 増減率	25/9期 期初予想
売上高	46,138	**51,677**	5,538	12.0%	53,360
売上総利益	17,844	**20,763**	2,918	16.4%	21,670
営業利益	3,880	**4,990**	1,110	28.6%	4,850
EBITDA※1	7,224	**8,865**	1,641	22.7%	8,560
親会社に帰属する当期純利益 （特殊要因※2除く）	6,146 (2,559)	**3,000** **(3,000)**	▲3,146 (441)	▲51.2% (17.2%)	3,380
一株当たり利益※3 （税引き後営業利益ベース）	110.76円	**141.87円**	31.11円	28.1%	138.45円
ROE※3 （税引き後営業利益ベース）	5.9%	**7.5%**	1.6pt	27.1%	7.4%

※1 EBITDA＝営業利益＋減価償却費（設備リース費含む）
※2 前年同期計上の一過性収益（デリバティブ評価益765百万円及び有価証券売却益等の特別利益3,953百万円）が当期には発生せず
※3 親会社株主に帰属する当期純利益ベースの一株当たり純利益及びROEは下記のとおり
24/9期 一株当たり純利益：252.85円 ROE：14.2%　25/9期 一株当たり純利益：122.94円 ROE：6.5%

中期経営計画３つの成長戦略
（女性医療・バイオシミラー・グローバルCMO）はいずれも伸長

（単位：百万円）

事業領域	23/9期 実績	24/9期 実績	25/9期 実績	前期比 （増減率）	25/9期 領域構成比
女性医療	18,819	21,162	**22,372**	**7.7%**	**43.3%**
（国内）	18,790	21,067	**22,163**	5.2%	
（海外）	28	94	**208**	121.3%	
バイオシミラー ＊国内のみ	1,718	1,837	**1,973**	**7.4%**	**3.8%**
CMO 医薬品製造受託	6,550	7,950	**8,342**	**4.9%**	**16.1%**
（国内）	3,111	3,831	**4,364**	13.9%	
（海外）	3,438	4,118	**3,977**	▲3.4%	
その他 ＊国内のみ	13,801	15,188	**18,989**	25.0%	**36.7%**
合計	40,889	46,138	**51,677**	12.0%	**100.0%**

※ CMO…Contract Manufacturing Organization
※ CMO (海外) は連結調整後の金額
※ 25年9月期決算より新中期経営計画資料内（2024.11.25リリース）にて示した新区分（女性医療、バイオシミラー、CMO、その他）にて開示
従来の旧区分（女性医療、急性期医療、海外事業、その他）での売上高内訳は本資料のp34参照
※「アナストロゾール錠」、「レトロゾール錠」、「アレンドロン酸錠」といった旧区分で急性期医療に分類されていた製品は女性医療に分類
※ 旧区分で女性医療領域に分類されていた製造受託については、CMOに分類

25/9期主力製品売上高

（単位：百万円）

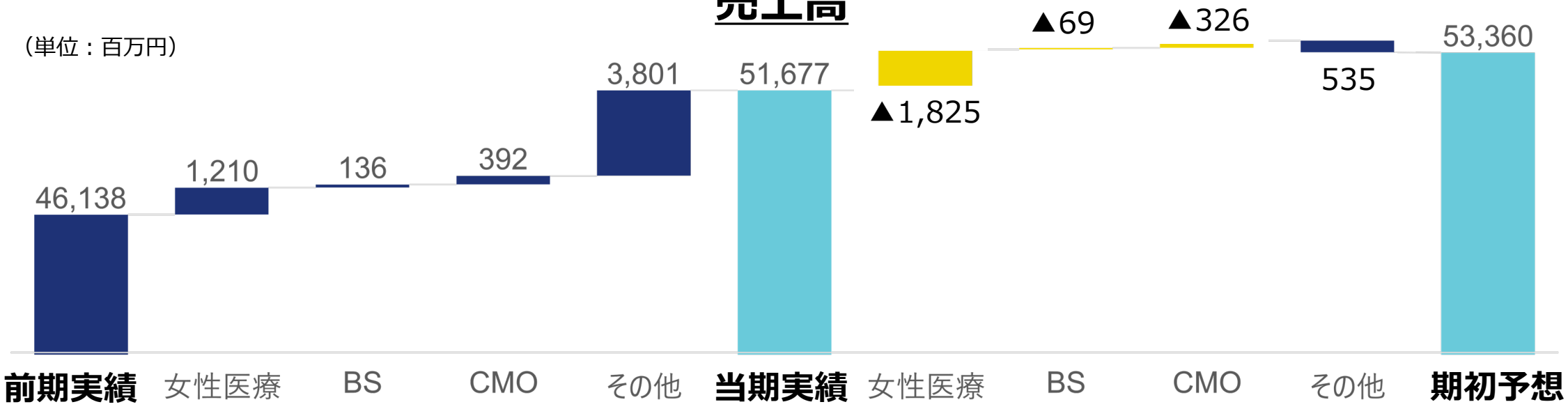
分類	製品名	区分	23/9期 実績	24/9期 実績	25/9期 実績	前期比		25/9期		備考
						増減額	増減率	期初予想	対計画比	
女性医療	黄体ホルモン剤（更年期障害） **エフメノ®カプセル**	先発	2,751	3,181	4,311	1,130	35.5%	**3,700**	116.5%	女性更年期患者の増加等により好調
	黄体ホルモン剤（不妊症） **ウトロゲスタン®膣用カプセル**	先発	2,663	2,436	2,183	▲ 253	▲10.4%	**2,500**	87.3%	競合品の出荷再開の影響を受けるもトップシェア維持
	経口避妊薬 **ファボワール®錠**	GE	1,792	2,074	2,395	321	15.5%	**2,400**	99.8%	オンライン診療先でのシェア獲得により堅調に推移
	抗がん剤 **ドキシル®注**	先発	1,321	1,817	1,756	▲ 61	▲3.4%	**1,800**	97.6%	薬価改定の影響
	経口避妊薬 **ラベルフィーユ®錠**	GE	1,048	1,233	1,264	31	2.5%	**1,200**	105.3%	オンライン診療先でのシェア獲得により好調
	月経困難症治療剤 **アリッサ®配合錠**	先発	0	0	512	512	-	**1,100**	46.6%	プロモーション方針変更により4Qに自力が向上
	緊急避妊剤 **レボノルゲストレル錠**	GE	1,007	1,060	800	▲ 260	▲24.5%	**1,000**	80.0%	オンライン診療における国内未承認薬の影響
バイオシミラー	G-CSF製剤 **フィルグラスチムBS**	BS	1,718	1,761	1,674	▲ 87	▲4.9%	**1,700**	98.5%	薬価改定の影響
	乾癬治療剤 **ウステキヌマブBS**	BS	0	75	298	223	-	**300**	99.3%	患者負担軽減により医師・患者からの需要拡大
その他	CT用ヨード造影剤 **造影剤(イオパミドール・イオヘキソール)**	GE	7,753	8,211	7,868	▲ 343	▲4.2%	**8,500**	92.6%	先発品との薬価逆転の影響
	2024年9月期 新製品	GE	0	412	1,938	1,527	-	**2,200**	88.1%	一部採用スケジュールの遅延が起こるも凡そ想定通りの推移 （スガマデクス、ランジオロール、レナリドミド）
	2024年9月期 承継品	先発	0	102	2,048	1,946	-	**2,000**	102.4%	想定通りの進捗 （アザニン、コレバイン、サーファクテン※）

※ サーファクテンは25年1月より承継

25/9期　売上高・営業利益の増減要因（前期比、期初予想比）

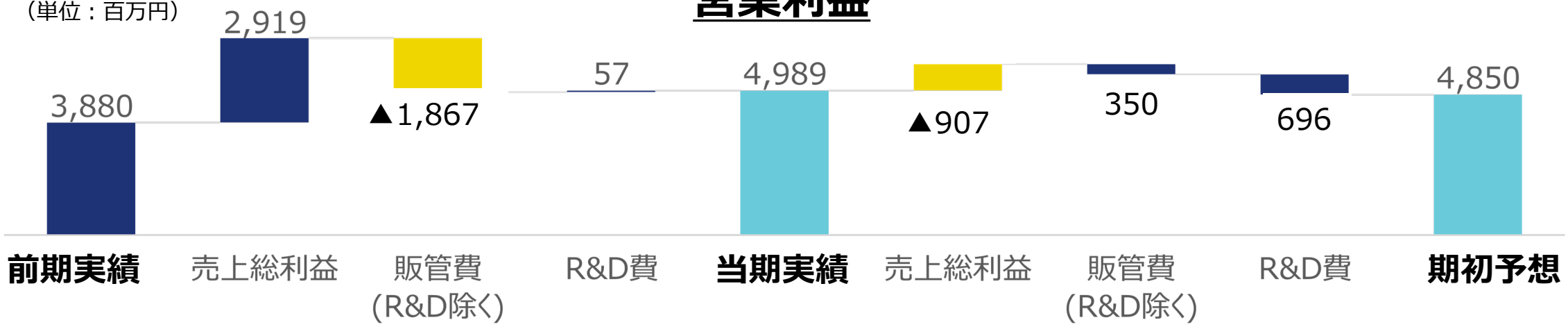
売上高

（単位：百万円）



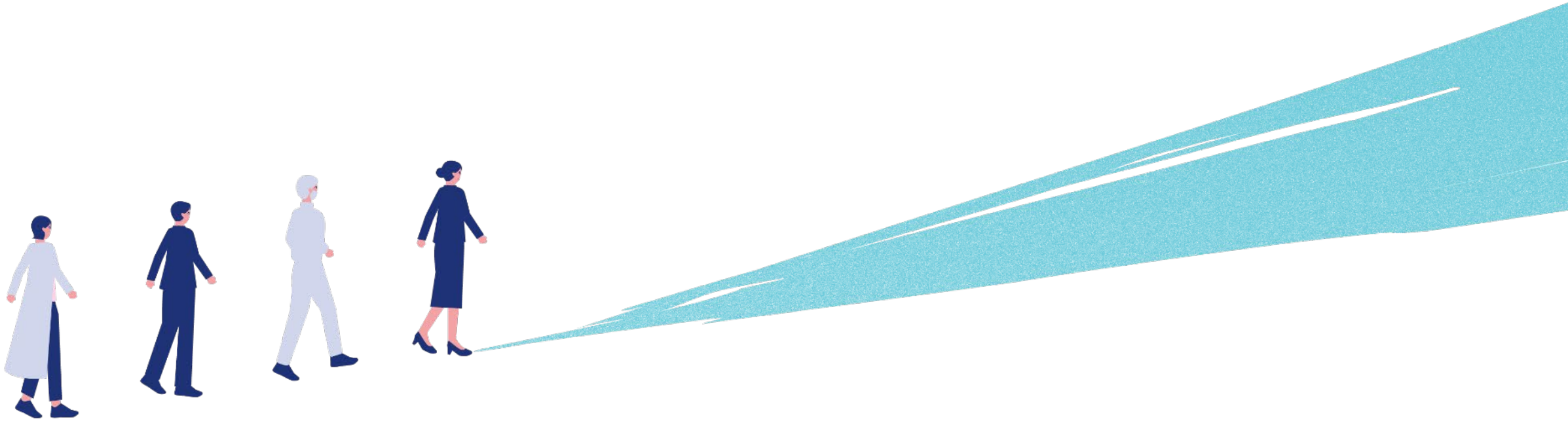
営業利益

（単位：百万円）



02

2026年9月期連結業績予想



26/9期も売上・営業利益ともに前期に引き続き二桁成長を見込む

（単位：百万円）

	25/9期 実績	26/9期 予想	前期比	
			増減額	増減率
売上高	51,677	57,490	5,813	11.2%
売上総利益	20,763	23,690	2,927	14.1%
営業利益	4,990	5,520	530	10.6%
EBITDA※1	8,865	9,502	637	7.2%
親会社に帰属する当期純利益	3,000	3,810	810	27.0%
一株当たり利益※2 （税引き後営業利益ベース）	141.87円	156.60円	14.73円	10.4%
ROE※2 （税引き後営業利益ベース）	7.5%	7.9%	0.4pt	5.3%

※1: EBITDA＝営業利益＋減価償却費（設備リース費含む）
※2:親会社株主に帰属する当期純利益ベースの一株当たり純利益及びROEは次のとおり　*[25/9期] 一株当たり純利益: 122.94円　ROE: 6.5%　*[26/9期] 一株当たり純利益: 155.79円　ROE: 7.6%

26/9月期　女性医療・バイオシミラーの売上高は順調に拡大を予想

（単位：百万円）

事業領域	24/9期 実績	25/9期 実績	26/9期 予想	前期比 （増減率）	25/9期 領域構成比	26/9期 領域構成比
女性医療	21,162	22,372	**25,280**	13.0%	**43.3%**	**44.0%**
（国内）	21,067	22,163	**24,680**	11.4%		
（海外）	94	208	**600**	188.5%		
バイオシミラー ＊国内のみ	1,837	1,973	**3,720**	88.5%	**3.8%**	**6.4%**
CMO 医薬品製造受託	7,950	8,342	**8,500**	1.9%	**16.1%**	**14.8%**
（国内）	3,831	4,364	**4,450**	2.0%		
（海外）	4,118	3,977	**4,050**	1.8%		
その他 ＊国内のみ	15,188	18,989	**19,990**	5.3%	**36.7%**	**34.8%**
合計	46,138	51,677	**57,490**	11.2%	**100.0%**	**100.0%**

※ CMO…Contract Manufacturing Organization
※ CMO (海外) は連結調整後の金額

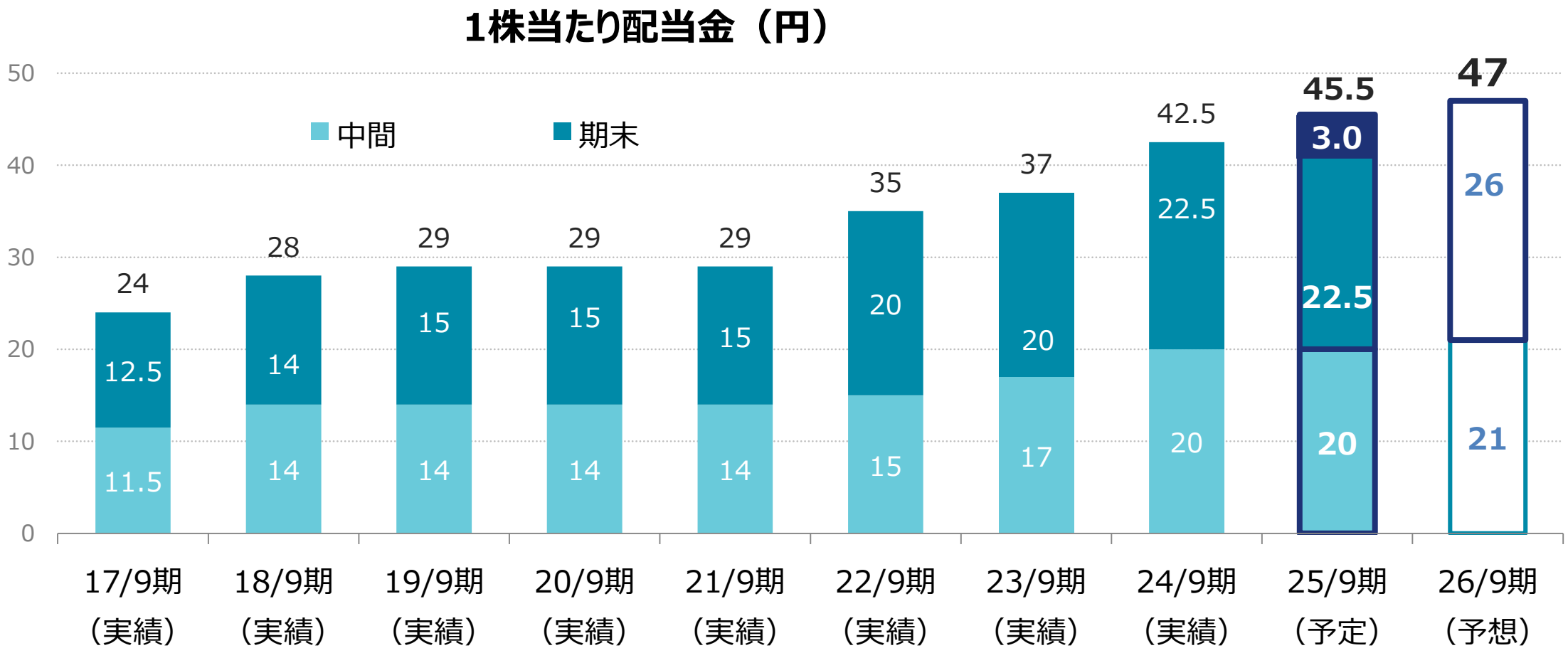
26/9期主力製品売上高 予想

（単位：百万円）

事業領域	製品名	区分	24/9期 実績	25/9期 実績	26/9期 通期予想	前期比 増減額	前期比 増減率
女性医療	黄体ホルモン剤（更年期障害） エフメノ®カプセル	先発	3,181	4,311	**5,100**	789	18.3%
	月経困難症治療剤 アリッサ®配合錠	先発	-	512	**3,100**	2,588	505.5%
	黄体ホルモン剤（不妊症） ウトロゲスタン®膣用カプセル	先発	2,074	2,183	**1,800**	▲ 685	▲27.6%
	経口避妊薬 ファボワール錠・ラベルフィーユ錠	GE	3,308	3,659	**3,300**	▲ 359	▲9.8%
	緊急避妊剤 レボノルゲストレル錠	GE	1,060	800	**700**	▲ 100	▲12.5%
	女性医療(国内) 合計		**21,067**	**22,163**	**24,680**	**2,517**	**11.4%**
バイオシミラー	G-CSF製剤 フィルグラスチムBS	BS	1,761	1,674	**1,500**	▲ 174	▲10.4%
	乾癬治療剤 ウステキヌマブBS	BS	75	298	**600**	302	101.3%
	BS 3製品合計 アフリベルセプト・ゴリムマブ・デノスマブ	BS	-	-	**1,500**	1,500	-
	バイオシミラー 合計		**1,837**	**1,973**	**3,720**	**1,727**	**87.5%**
その他	CT用ヨード造影剤 造影剤（イオパミドール・イオヘキソール）	GE	8,211	7,868	**8,000**	132	1.7%
	その他 合計		**15,188**	**18,988**	**19,990**	**1,002**	**5.3%**

女性医療・BSの成長が利益貢献し、26年9月期も増配を見込む

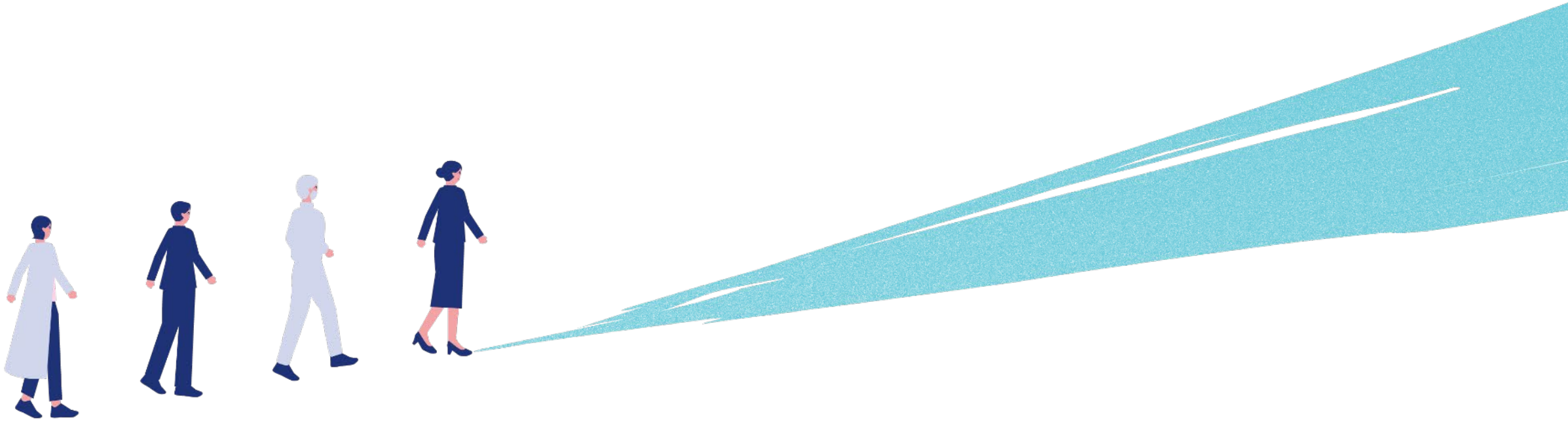
株主還元方針：累進配当・配当性向30%以上（税引き後営業利益ベース）



※：2018年7月1日付けで普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施。そのため、2018年9月期中間配当以前は、当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり配当金を算出

03

注力事業トピックス



長期ビジョン2035実現に向けた４つの成長戦略と3つの施策

長期ビジョン2035

女性医療で新たな価値を創出し続け、
誰もがwell-beingを実感できる社会へ貢献する

中期の成長ドライバー

- 01 女性領域での貢献拡大
- 02 バイオシミラー事業の成長
- 03 グローバルCMO事業の成長

長期の成長ドライバー

- 04 次の成長に向けた戦略投資

経営基盤の強化

- 人財の強化
- 組織機能の高度化
- デジタルの推進

アリッサ®配合錠（エステトロール(E_4)／ドロスピレノン(DRSP)配合錠）26年9月期売上31億円に向けて

発売初年度

血栓症の副作用軽減に対する高い期待

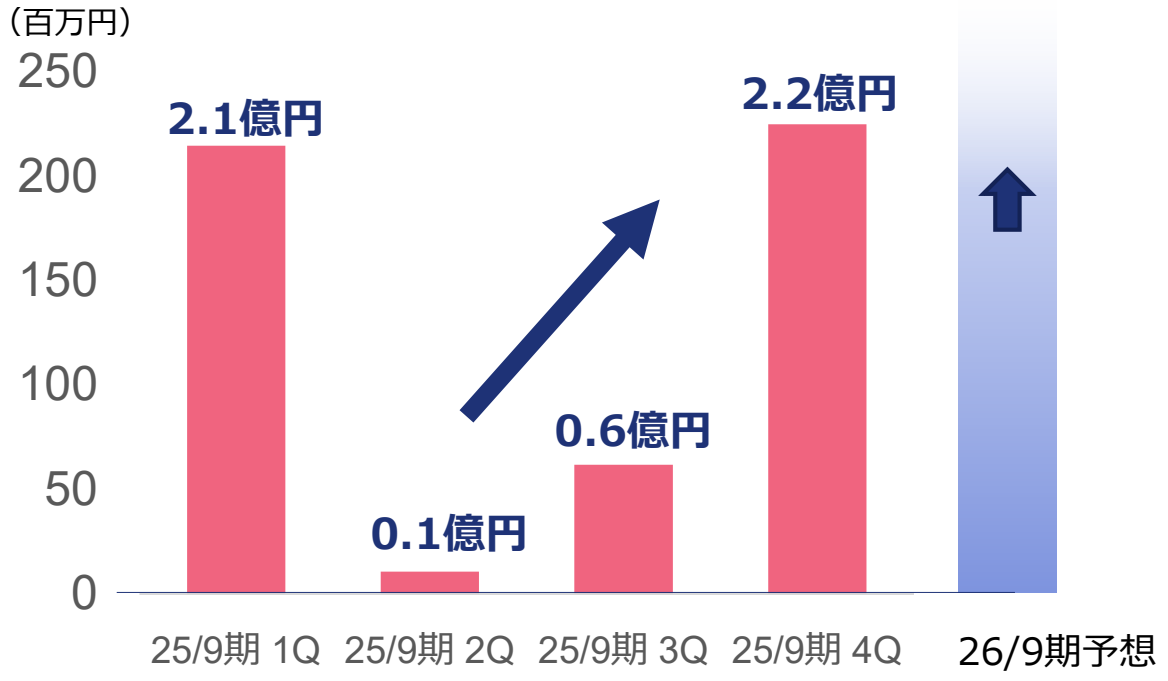
血栓症ハイリスク群（40代など）に偏った処方

→

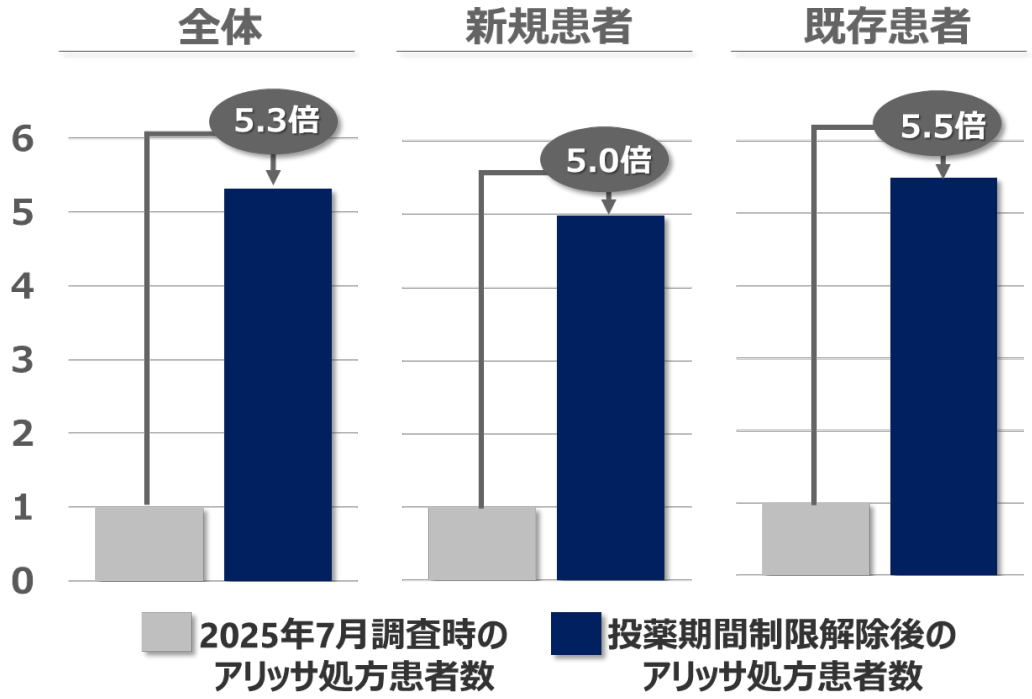
血栓症に限らず、頭痛・吐き気などのマイナートラブルに対する評価

新患を中心に幅広い年齢層に処方開始

25年9月期4Q売上は2億円超まで成長



投薬期間制限解除後の処方意向は5倍超



出典：医師調査（2025年7月実施）
【回答医師数】330名

FIGO2025(国際婦人科・産科連合) 2025年10月5日～9日開催

□ 南アフリカで開催されたFIGO2025で避妊薬における天然型エストロゲンの価値が取り上げられた

FIGO

- 産婦人科領域において最大規模の国際学会
- FIGO2025では146の国と地域が参加し、最終学会参加数は約5,300名に及ぶ

⇒避妊薬における「エストロゲンの必要性」「天然型エストロゲンの有用性」が提言として紹介される

産婦人科専門医よりビデオメッセージ

大須賀　穣　先生

帝京大学臨床研究センター 教授・センター長
東京大学　名誉教授
帝京大学医学部産婦人科学講座 特任教授

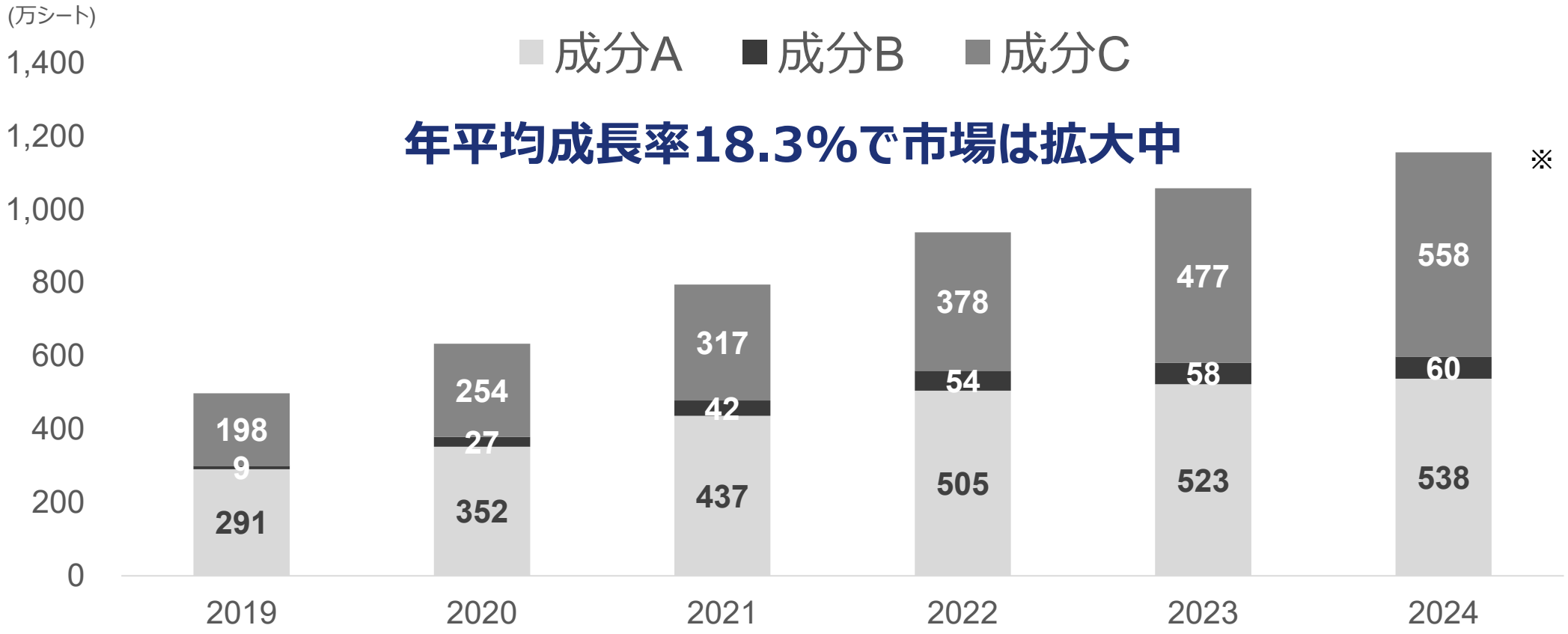
産婦人科専門医からのメッセージ

「ESCONEC」による国際産科婦人科連合 (***FIGO***) での
避妊薬に関する提言と白書の内容紹介

注意事項
本情報提供は、国際海外学会の内容を紹介するもので、宣伝広告・医学アドバイスを目的としているものではありません。
海外で販売されている「E_4＆DRSP」は日本で販売するアリッサ®配合錠と適応症が異なります。

アリッサ上市前のLEP市場規模は約580億円※（アリッサ薬価換算）全て合成型エストロゲン(EE)含有製剤

唯一天然型エストロゲン（E_4）を含有するアリッサで早期に売上100億円を目指す



※ 出典：Copyright © 2025 IQVIA. IQVIA MIDAS (2019年9月-2024年9月MAT) をもとに自社試算　無断転載禁止

長期ビジョン2035実現に向けた４つの成長戦略と3つの施策

長期ビジョン2035

女性医療で新たな価値を創出し続け、
誰もがwell-beingを実感できる社会へ貢献する

中期の成長ドライバー

- 01 女性領域での貢献拡大
- 02 バイオシミラー事業の成長
- 03 グローバルCMO事業の成長

長期の成長ドライバー

- 04 次の成長に向けた戦略投資

経営基盤の強化

- 人財の強化
- 組織機能の高度化
- デジタルの推進

当社が承認を保有する5成分は全て単独もしくは1st上市（予定含む）

販売中
18成分

単独販売
6成分

複数BSあり
12成分

現状

置換え率80%超え

販売成分の22% ※

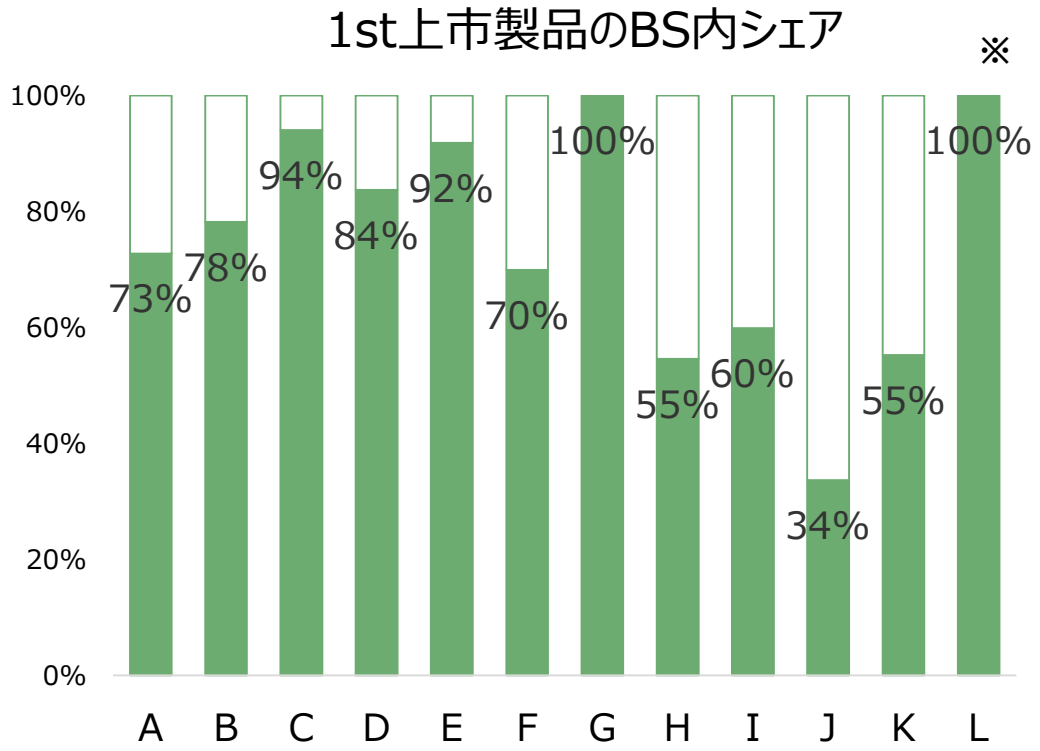
2029年度政府目標

置換え率80%超え

販売成分の60%

さらなる推進策が期待

複数BS上市時
1st上市品は全てトップシェア



※ 出典：Copyright © 2025 IQVIA. IQVIA MIDAS (2024年9月MAT) をもとに作成　無断転載禁止

上市済み2製品は1st上市、承認取得3製品も1st上市を見込む

フィルグラスチムBS（後続1）

- ✓ トップシェア※1

ウステキヌマブBS（後続1）　先行品市場：567億円※3

- ✓ 口座獲得は順調(BS採用施設口座シェア96%※2)
- ✓ 乾癬（処方全体の1割）の適応のみで3億円を突破→適応追加による拡大を見込む

2025年9月承認取得

ゴリムマブBS （後続1）　先行品市場：414億円※3

- ✓ 単独承認
- ✓ 26年5月薬価収載及び発売を見込む※4

デノスマブBS （後続1）　先行品市場：201億円※3

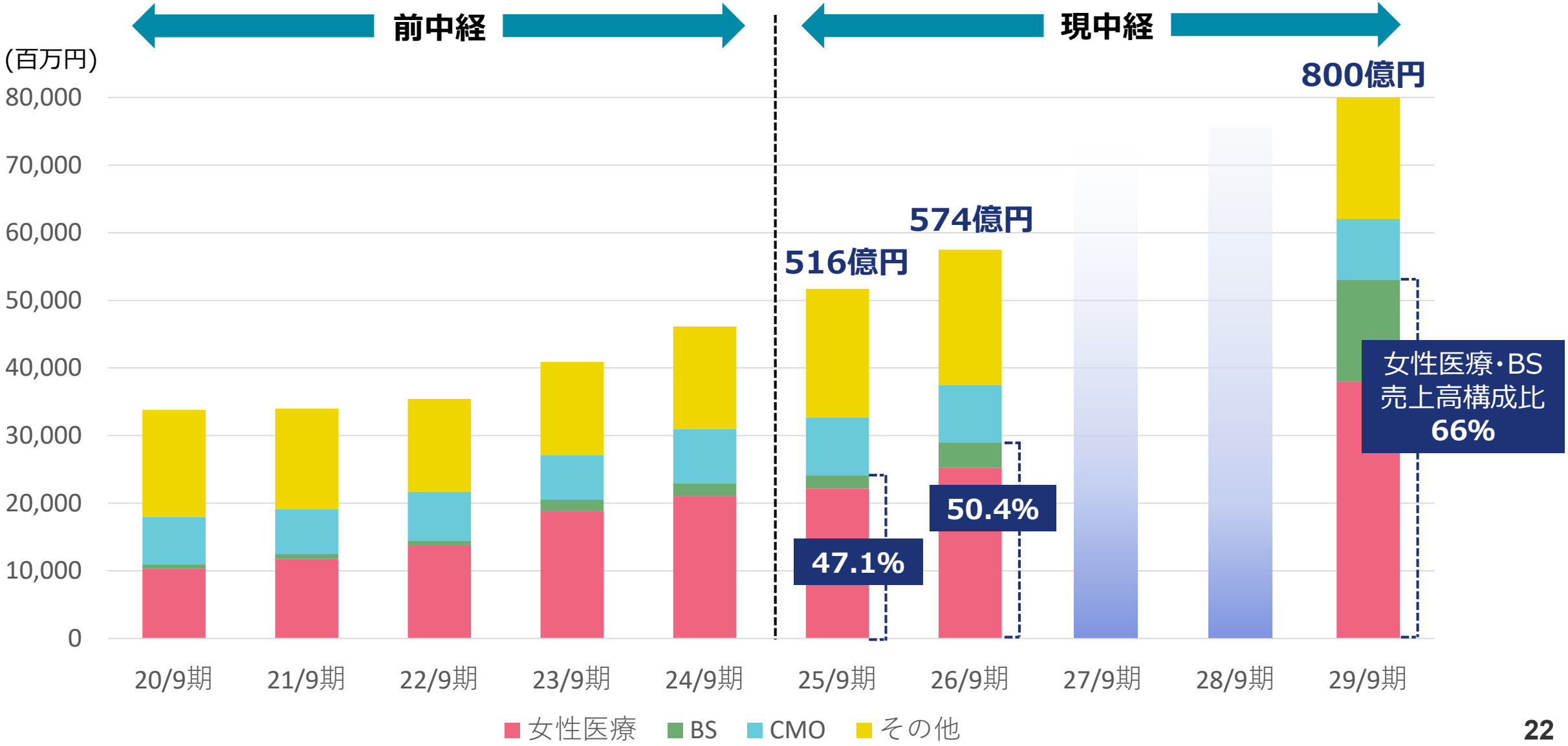
- ✓ 単独承認
- ✓ 26年中の薬価収載及び発売を見込む※5

アフリベルセプトBS （後続2）　先行品市場：781億円※3

- ✓ 25年11月12日薬価収載
- ✓ 売上最大化のために、日東メディック株式会社と日本における販売およびプロモーション契約を締結

※1出典：Copyright © 2025 IQVIA. IQVIA MIDAS (2024年9月MAT)をもとに自社分析　無断転載禁止
※2：自社推計
※3出典：Answers News Webサイト2025年6月25日記事「2024年度国内医薬品売り上げランキング」
※4：バイオ後続品(バイオシミラー) ゴリムマブBSに関する契約締結のお知らせ
https://www.fujipharma.jp/__upload/JP_fujipharma_20251104.pdf
※5：バイオ後続品(バイオシミラー) デノスマブBSに関する契約締結のお知らせ
https://www.fujipharma.jp/__upload/JP_fujipharma_20251031.pdf

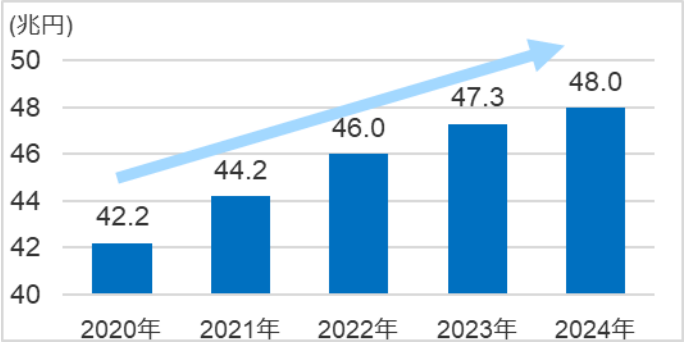
29年9月期売上800億円に向けて、初年度順調な滑り出し
26年9月期以降、女性医療・BSを軸に更なる成長を計画



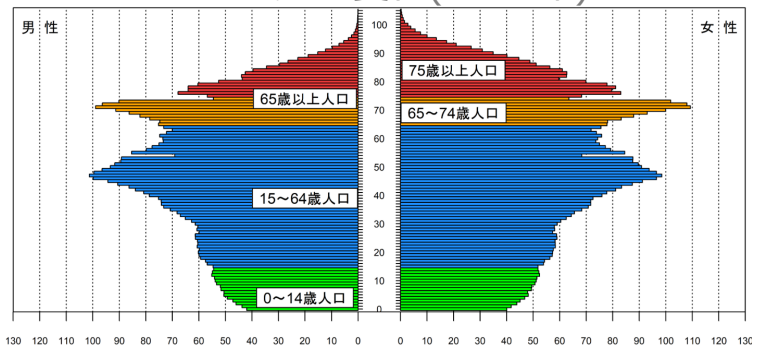
日本が直面する課題と当社の重点領域

高齢化による医療費の高騰 × **女性特有の健康課題による経済損失**

医療費の動向※1



人口ピラミッドの変化(2020年)※2



女性特有の健康課題による経済損失額※3

	女性特有の健康課題		
	月経随伴症状	更年期症状	婦人科がん
経済損失計 3.4兆円	0.6兆円	1.9兆円	0.6兆円

日本が直面する課題解決に向けて重点領域を強化

バイオシミラー × **女性医療**

- ✓ 医療費適正化
- ✓ 持続可能な保険制度の実現

- ✓ 女性特有の健康課題解決
- ✓ 女性のWell-beingの実現

※1 出典：「令和６年度 医療費の動向」（厚生労働省）https://www.mhlw.go.jp/topics/medias/year/24/dl/iryouhi_data.pdf
※2 出典：「日本の将来推計人口 (令和5年推計)」（国立社会保障・人口問題研究所）https://www.ipss.go.jp/
※3 出典：「女性特有の健康課題による経済損失の試算と健康経営の必要性について」（経済産業省）https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/healthcare/downloadfiles/jyosei_keizaisonshitsu.pdf

長期ビジョン2035実現に向けた４つの成長戦略と3つの施策

長期ビジョン2035

女性医療で新たな価値を創出し続け、
誰もがwell-beingを実感できる社会へ貢献する

中期の成長ドライバー

- 01 女性領域での貢献拡大
- 02 バイオシミラー事業の成長
- 03 グローバルCMO事業の成長

長期の成長ドライバー

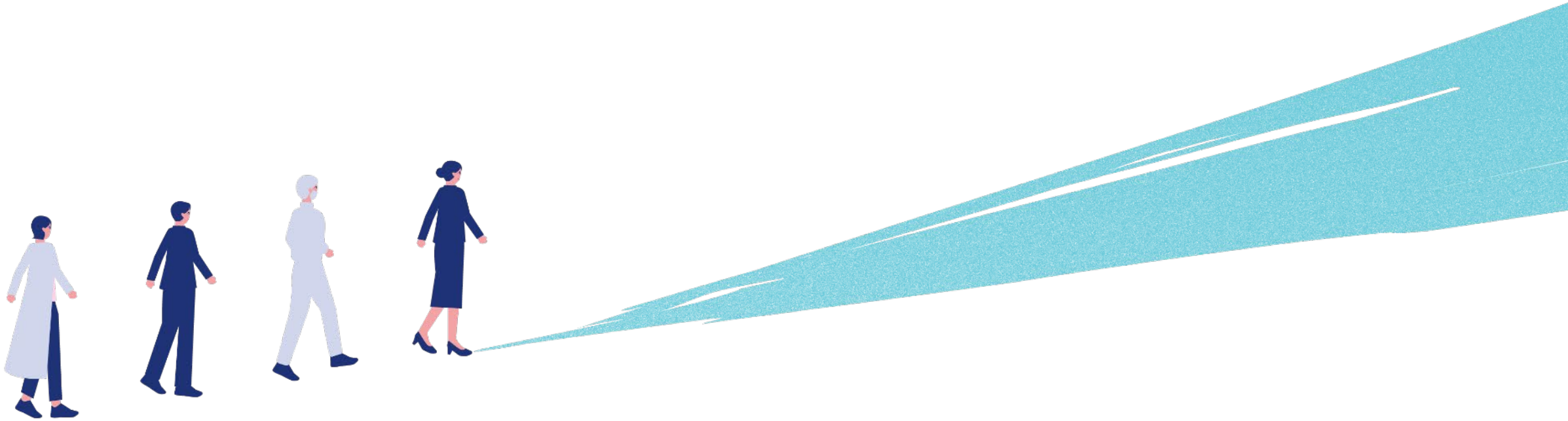
- 04 次の成長に向けた戦略投資

経営基盤の強化

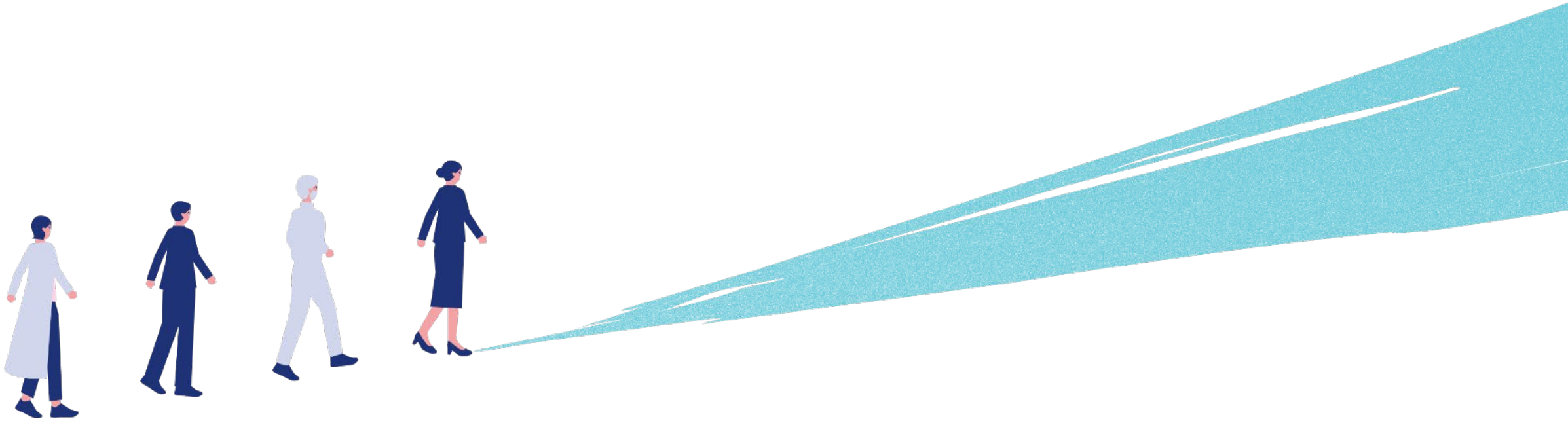
- 人財の強化
- 組織機能の高度化
- デジタルの推進

05

Q&A



Appendix



25/9期連結決算ハイライト

(単位：百万円)

	24/9期 実績	25/9期 実績	前期比 増減額	前期比 増減率	25/9期 期初予想
売上高	46,138	**51,677**	5,538	12.0%	53,360
売上総利益	17,844	**20,763**	2,918	16.4%	21,670
営業利益	3,880	**4,990**	1,110	28.6%	4,850
EBITDA※1	7,224	**8,865**	1,641	22.7%	8,560
親会社に帰属する当期純利益 (特殊要因※2除く)	6,146 (2,559)	**3,000** **(3,000)**	▲3,146 (441)	▲51.2% (17.2%)	3,380
一株当たり利益※3 （税引き後営業利益ベース）	110.76円	**141.87円**	31.11円	28.1%	138.45円
ROE※3 （税引き後営業利益ベース）	5.9%	**7.5%**	1.6pt	27.1%	—%

※1 EBITDA＝営業利益＋減価償却費（設備リース費含む）
※2 前年同期計上の一過性収益（デリバティブ評価益等765百万円及び有価証券売却益等の特別利益3,953百万円）が当期には発生せず
※3 親会社株主に帰属する当期純利益ベースの一株当たり純利益及びROEは下記のとおり
24/9期 一株当たり純利益：252.85円 ROE：14.2%　25/9期 一株当たり純利益：122.94円 ROE：6.5%

25/9期連結決算概要

売上高

- 女性医療　：「エフメノ®カプセル」などが貢献、「アリッサ®配合錠」に進捗の遅れが発生するも実績は上向き
- バイオシミラー　：計画に対して堅調に推移
- CMO　：堅調に推移
- その他の領域　：承継品、血液内科・消化器内科の製品伸長が貢献

売上総利益

- 製品ミックス、24年度薬価改定での不採算品再算定の影響、第4四半期計上の契約一時金収入により、前年比16.4%増で粗利益率改善

営業利益

- 新製品上市に伴い人件費、減価償却費などが増加するも、売上総利益の増加が大きく貢献し、営業利益大幅増

経常利益

- 前年同期に計上されたデリバティブ評価益を除く実力値比較で経常利益は、645百万円増加(＋16.9%)

親会社株主に帰属する当期純利益

- 前年同期に発生の一過性の投資有価証券の売却益を除く実力値比較で当期純利益は、441百万円増加

25/9期連結決算概要

(単位：百万円)

	24/9期 実績	25/9期 実績	前期比 増減額	前期比 増減率	25/9期 期初予想	期初予想比
売上高	46,138	**51,677**	5,538	12.0%	53,360	96.8%
売上総利益	17,844	**20,763**	2,918	16.4%	21,670	95.8%
粗利益率	38.7%	**40.2%**	-	-	40.6%	-
販売管理費	13,963	15,773	1,809	13.0%	16,820	93.8%
販売管理費率	30.3%	**30.5%**	-	-	77.6%	-
営業利益	3,880	4,990	1,109	28.6%	4,850	102.9%
営業利益率	8.4%	**9.7%**	-	-	9.1%	-
経常利益	4,445	4,459	13	0.3%	4,680	95.3%
経常利益率	9.6%	**8.6%**	-	-	8.8%	-
親会社株主に帰属する当期純利益※1	6,146	3,000	▲3,146	▲51.2%	3,380	88.8%
当期純利益率	13.3%	**5.8%**	-	-	6.3%	-
EBITDA※2	7,224	8,865	1,641	22.7%	8,560	103.6%
設備投資額※3	2,686	2,392	▲294	▲10.9%	4,120	58.1%
減価償却費（設備リース費含む）	3,343	3,875	531	15.9%	3,710	104.4%
研究開発費	3,401	3,344	▲56	▲1.7%	4,040	82.8%
研究開発費率	7.4%	**6.5%**	-	-	7.6%	-

※1 前年同期に発生の一過性の投資有価証券の売却益3,118百万円に加えて、第2四半期に計上の胃蠕動抑制剤「ミンクリア」の減損の影響
※2 EBITDA＝営業利益＋減価償却費（設備リース費含む）
※3 設備投資額=取得価格ベース

26/9期通期連結業績予想　概要

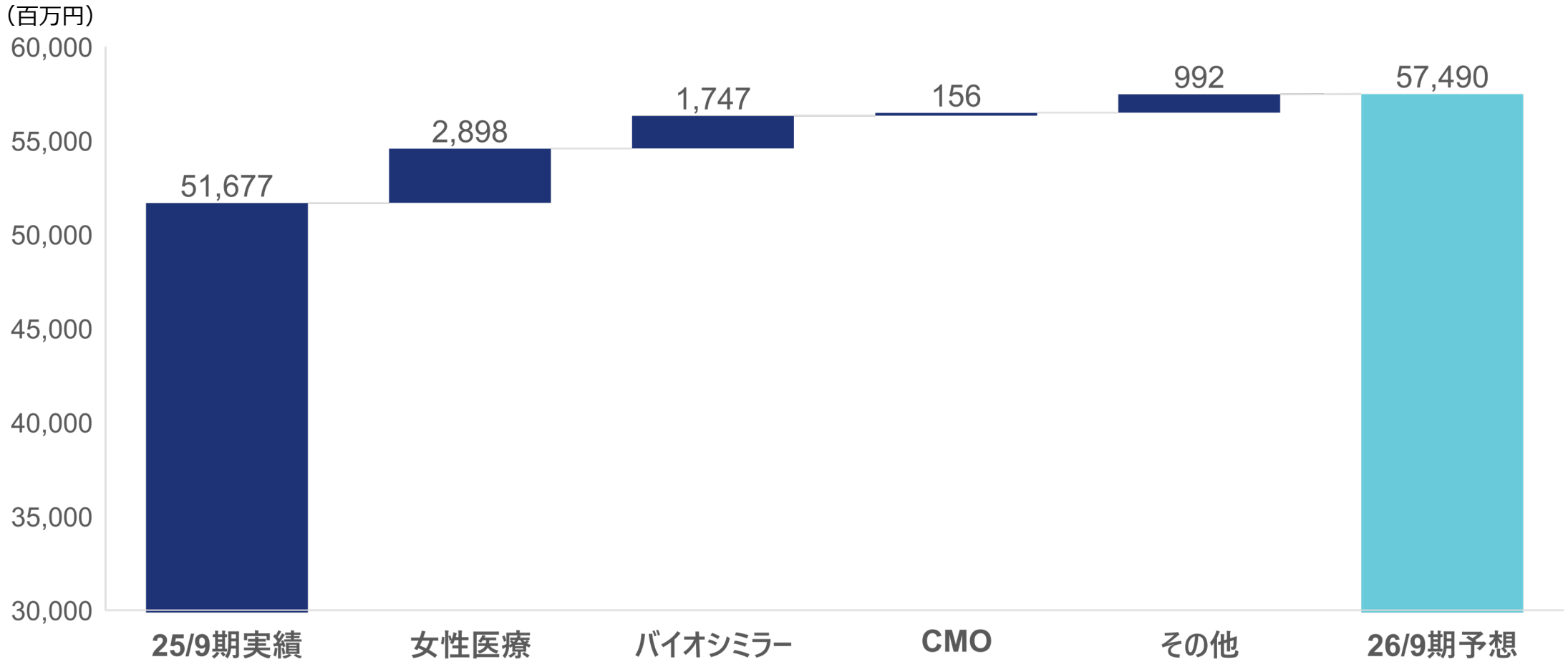
(単位：百万円)

	25/9期 実績	26/9期 予想	前期比 増減額	前期比 増減率
売上高	51,677	57,490	5,813	11.2%
売上総利益	20,763	23,690	2,927	14.1%
粗利益率	40.2%	**41.2%**	-	-
販売管理費	15,773	18,170	2,397	15.2%
販売管理費率	30.5%	**31.6%**	-	-
営業利益	4,990	5,520	530	10.6%
営業利益率	9.7%	**9.6%**	-	-
経常利益	4,459	5,240	781	17.5%
経常利益率	8.6%	**9.1%**	-	-
親会社株主に帰属する当期純利益	3,000	3,810	810	27.0%
当期純利益率	5.8%	**6.6%**	-	-
一株当たり利益＊1 （税引き後営業利益ベース）	141.87円	156.60円	15.43円	10.9%
自己資本利益率＊1 （税引き後営業利益ベース）	7.5%	7.9%	0.4pt	5.3%
EBITDA＊2	8,865	9,502	637	7.2%
設備投資額	2,392	3,471	1,079	45.1%
減価償却費（設備リース費含む）	3,875	3,982	107	2.8%
研究開発費	3,344	4,600	1,256	37.6%
研究開発費率	6.5%	**8.0%**	-	-

※1: 親会社株主に帰属する当期純利益ベースの一株当たり純利益及びROEは次のとおり　*[25/9期] 一株当たり純利益: 122.94円　ROE: 6.5%　*[26/9期] 一株当たり純利益: 155.79円　ROE: 7.6%
※2: EBITDA＝営業利益＋減価償却費（設備リース費含む）

26/9期　売上予想

売上高は前期と比較して58億円の増加 ➡ **女性医療、バイオシミラーが大きく牽引**



26/9期　売上増加の内訳

26/9期
売上高増加額

◆ 女性医療

- アリッサ配合錠（月経困難症治療剤）
- エフメノカプセル（更年期障害治療剤）

女性医療 → **+24億円**

◆ バイオシミラー

- ウステキヌマブBS（乾癬治療剤）
- 25年9月期 製造販売承認取得3製品

バイオシミラー → **+16億円**

◆ その他

- レナリドミド（多発性骨髄腫治療剤）
- サルプレップ（経口腸管洗浄剤）
- 契約一時金収入

など

その他 → **+9億円**

長期ビジョン2035実現に向けた４つの成長戦略と3つの施策

長期ビジョン2035

女性医療で新たな価値を創出し続け、
誰もがwell-beingを実感できる社会へ貢献する

中期の成長ドライバー

- 01 女性領域での貢献拡大
- 02 バイオシミラー事業の成長
- 03 グローバルCMO事業の成長

長期の成長ドライバー

- 04 次の成長に向けた戦略投資

経営基盤の強化

- 人財の強化
- 組織機能の高度化
- デジタルの推進

アリッサ®配合錠（エステトロール(E4)／ドロスピレノン(DRSP)配合錠）

月経困難症の治療

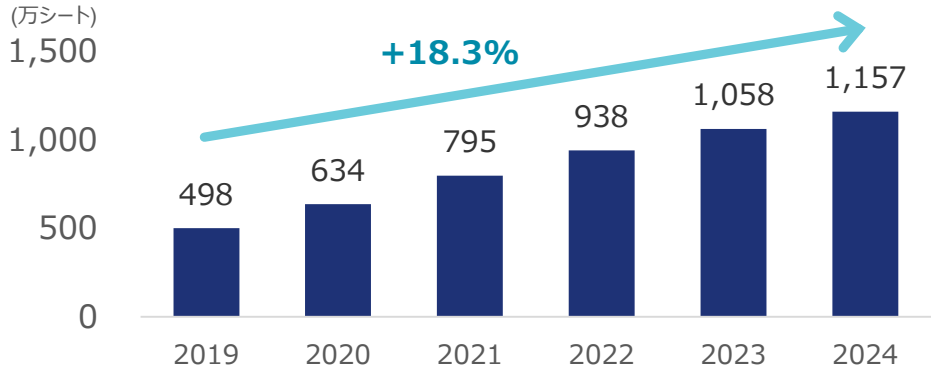
- 本邦における月経困難症治療患者のうち、LEP（低用量エストロゲン・プロゲスチン製剤）を使用している患者の割合は**81%** ※1に上る
- LEP製剤の重篤な副作用として深部静脈血栓症があり、発生頻度は低いものの、命に係わる副作用であるため依然として医師・患者の懸念

アリッサ配合錠の概要

- 本邦で初めて天然型エストロゲンのエステトロール（E_4）を含有する月経困難症治療薬
- エステトロール／ドロスピレノン配合剤（卵胞ホルモンと黄体ホルモンを組み合わせた配合剤）
- 米国・欧州含め41か国で経口避妊薬として承認 (2025年5月時点)、タイではOLICが上市：製品名「Nextstellis」

LEP市場

- LEP市場は2019年から2024年にかけてCAGRで18.3%拡大中 ※2
- アリッサ薬価換算で市場は約580億円 ※3 （2023年10月～2024年9月）
- 国内服薬率は未だ低く、今後も成長余地のある市場と見込んでいる



エステトロール（E_4）の特徴

- 日本における新規有効成分
- エステトロール (E_4) は、エストロゲンの受容体に選択的に作用する特徴的な作用機序がある※ことから、臨床においても関心が高い。

※NEST･･･Native estrogen with selective action in tissues

※1 出典：Copyright © 2025 IQVIA IQVIA. MIDAS (2024年9月MAT), AHIpartners処方箋医薬品使用患者数集計 (2023年10月～2024年9月) をもとに自社分析　無断転載禁止
※2 出典：Copyright © 2025 IQVIA IQVIA. MIDAS (2019年9月MAT～2024年9月MAT) をもとに作成　無断転載禁止
※3 出典：Copyright © 2025 IQVIA IQVIA. MIDAS (2024年9月MAT) をもとに自社試算　無断転載禁止

女性医療（国内）更年期障害

多種多様な 更年期症状	血管運動症状（ほてり、のぼせ、発汗、冷えなど）、精神症状（イライラ、不安、不眠、抑うつ、無気力） 関節などの症状（腰痛、関節痛、肩こり）、めまい、耳鳴り、頭痛、動悸、息切れ、疲労感、皮膚症状(乾燥、かゆみ、湿疹など)

更年期の治療方法

- **ホルモン補充療法（HRT: Hormone Replacement Therapy）**
  閉経前後で年齢と共に欠乏する女性ホルモン（エストロゲン）を飲み薬や貼り薬・塗り薬として体内に補充する根本的な治療法。体内のエストロゲン量を維持（補充）することによって、更年期におけるさまざまな症状を軽減。
- **漢方療法**
  頭痛やイライラ感など原因の特定が難しい症状の改善を目的とした治療法。
- **抗うつ剤・抗不安薬**
  うつや不安などの精神的な症状が強い場合には、抗うつ薬や抗不安薬などが用いられる。

HRTの投与方法

- **エストロゲン 単独療法**
  子宮を摘出している方にエストロゲンだけを投与して治療する方法
  エストロゲンには、経口薬や経皮薬があり、それぞれに特徴がある
- **エストロゲン＋プロゲステロン (黄体ホルモン) 併用療法**
  子宮がある方には、エストロゲンに加えて子宮体がんを予防する目的で黄体ホルモンが併用される

	当社が提供する選択肢	
	エストロゲン (卵胞ホルモン)	**プロゲステロン (黄体ホルモン)**
ホルモン補充療法 **HRT**	**ル・エストロジェル** 経皮吸収型の卵胞ホルモン製剤 **エストラジオール錠** 経済的メリットあり	**エフメノカプセル** 唯一適応を有する黄体ホルモン製剤

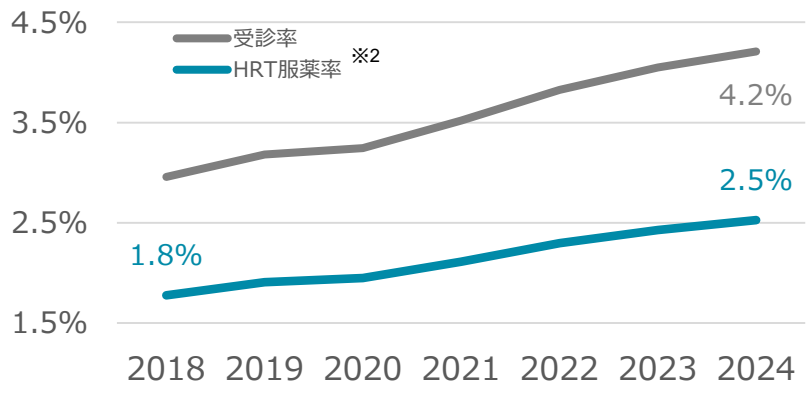
出所: 富士製薬工業株式会社ホームページ [一般の皆さま・患者さまへ] 更年期障害について https://www.fujipharma.jp/patients/menopause/treatment/

女性医療（国内）更年期障害

市場

- 更年期症状を有する女性は1120万人超え ※1
- HRT普及率1.8%→2.5%に向上 ※2
  ⇒啓発活動の効果も現れる※3
- 欧米諸国では約40%の普及率

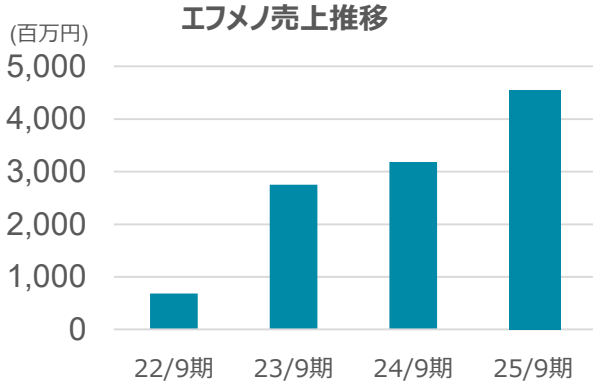
欧米先進国とは普及率に大きな差がある

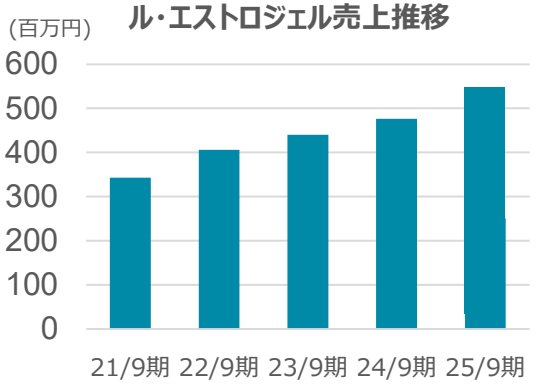


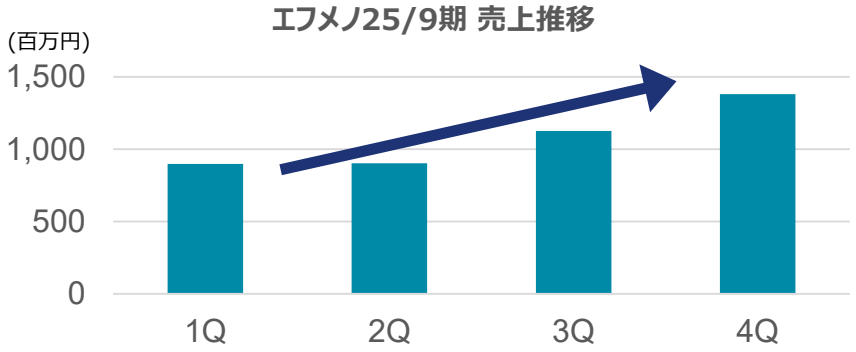
更年期障害の疑いのある女性は多く、
疾患啓発・婦人科受診促進が重要（潜在患者多い）

更年期治療薬売上推移

- 戦略品のエフメノ（プロゲステロン）は前年同期比＋42%
- ル・エストロジェル（エストロゲン）も売上拡大中
- 7月～他社品供給停止により、さらに加速







※1 総務省統計局データ（2021年10月年次データより), 国立社会保障・人口問題研究所（令和５年推計報告より),厚生労働省「更年期症状・障害に関する意識調査」2022年7月26日から当社試算）
※2 HRT服薬率,受診率：Copyright © 2025 IQVIA. JPM (2018年9月MAT～2020年9月MAT), IQVIA MIDAS (2021年9月MAT～2024年9月MAT), 社内データをもとに自社試算もとに自社試算　無断転載禁止
※3 啓発活動成功事例：2025年9月期第二四半期決算説明会資料（https://www.fujipharma.jp/__upload/JP_FY9_2025_2Q_InvestorMeetingMaterials_20250514.pdf#page=32）

女性医療（海外）OLIC社 Pharma事業（製造販売事業）

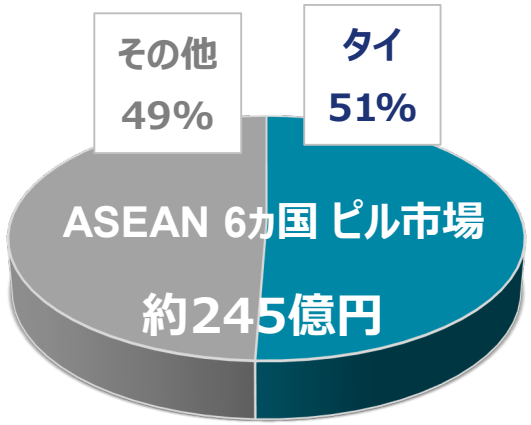
経口避妊薬 Nextstellis®（ネクステリス）

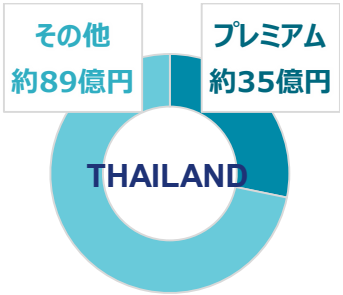
エステトロール (E_4) ／ドロスピレノン (DRSP)配合剤　＊国内ではアリッサ®配合錠

- タイでは経口避妊薬としてグループ会社OLICにより2023年4月から病院市場での販売を開始、2025年1月から薬局に販路拡大
- 月経困難症の適応追加による販売拡大準備中（日本国内の月経困難症治療薬アリッサ配合錠のデータを使用し25年10月に申請）
- ASEANにおける開発および販売権を保有→フィリピン、ベトナムで販売委託契約締結済み・申請準備中

市場

- ASEAN6ヵ国における経口避妊薬市場は約245億円 ※
  (タイ、インドネシア、シンガポール、フィリピン、ベトナム、マレーシア)
- タイの市場はASEAN6ヶ国において約50%を有する
- タイにおける経口避妊薬は医師の処方が必要な病院市場、
  薬局でも販売が可能なOTC市場に分類される
- プレミアム市場（高価格帯ピル市場）をターゲットに活動





※: Copyright © 2025 IQVIA. IQVIA MIDAS (2024年9月MAT)をもとに自社分析　無断転載禁止

長期ビジョン2035実現に向けた４つの成長戦略と3つの施策

長期ビジョン2035

女性医療で新たな価値を創出し続け、
誰もがwell-beingを実感できる社会へ貢献する

中期の成長ドライバー

- 01 女性領域での貢献拡大
- 02 バイオシミラー事業の成長
- 03 グローバルCMO事業の成長

長期の成長ドライバー

- 04 次の成長に向けた戦略投資

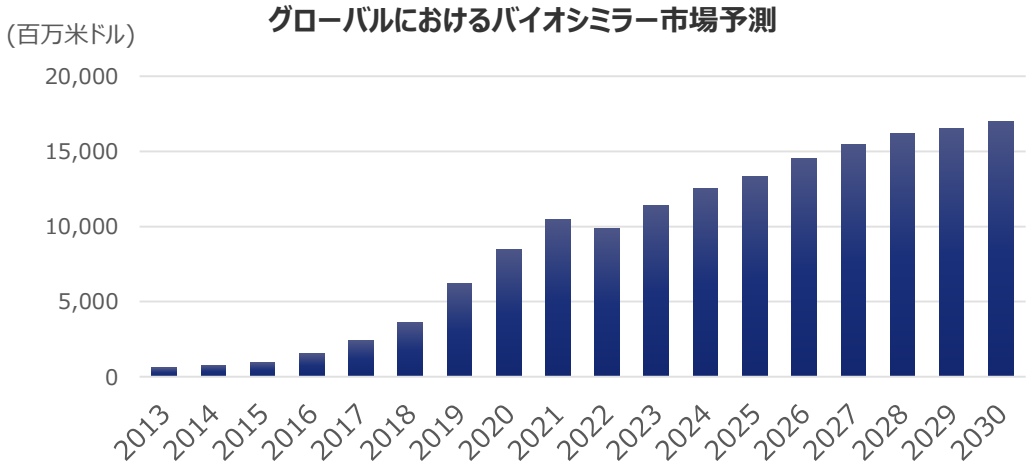
経営基盤の強化

- 人財の強化
- 組織機能の高度化
- デジタルの推進

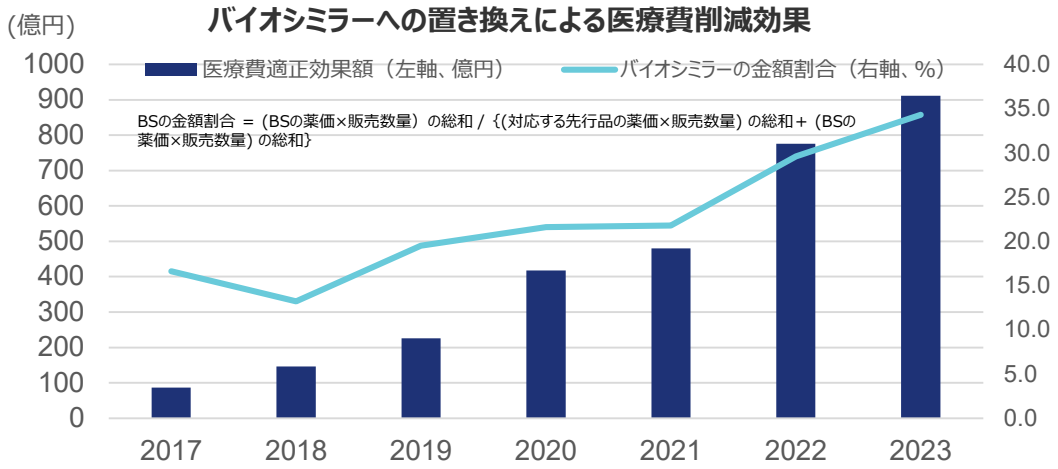
拡大するバイオシミラー市場、Alvotech社と提携する当社の強み

市場

- 世界のバイオシミラー市場は年平均+9.6%で成長、2024年12,540百万米ドル（約1.8兆円市場）の規模で今後も成長の見通し
- 国内においても特許切れバイオ医薬品の増加に伴い、医療費適正化の切り札としてバイオシミラーの役割が拡大（25年11月現在 22成分が承認取得）



出所: Evaluate Pharmaを基にSMBC日興証券 産業・サステナビリティ戦略部作成



出所: 厚生労働省公開情報を基にSMBC日興証券 産業・サステナビリティ戦略部作成

戦略

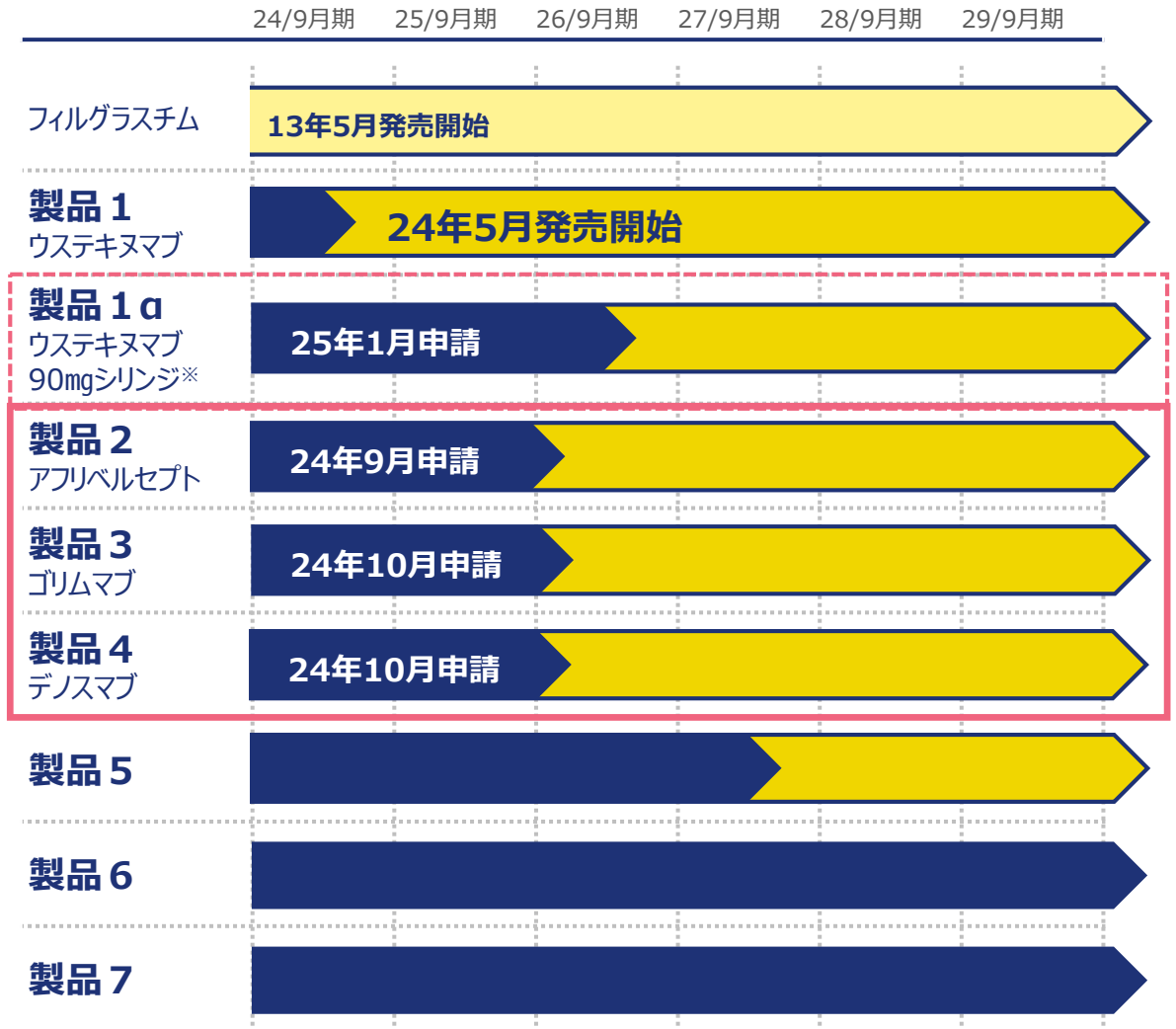
- Alvotech社との提携を通じて、多数のパイプラインを保持
- 多くの海外販売パートナーを抱えるAlvotech社のコストメリットを享受
- 最速での承認スケジュールで進め、1st上市を目指す
- 安定供給確保のため、国内での製造が可能な体制を構築中

Alvotechの特徴

- End-to-Endの一貫した開発・製造体制（R&D～最終製剤）
- 約90ヵ国に展開する販路 × 19の販売パートナー
- 市場規模1,850億ドル以上を超えるバイオシミラーパイプライン

承認取得見込み3製品の先行品市場約1,600億円市場に1st上市を目指す

■ BSパイプライン



※既に上市済みのウステキヌマブについて90mgシリンジを承認申請
先行品にない規格を追加することで治療に貢献

※ 出典：Copyright © 2025 IQVIA IQVIA MIDAS (2024年9月MAT)をもとに自社分析　無断転載禁止

24年9月,10月に３製品の承認申請

- BS３製品を新たに承認申請・上市準備中
  1. アフリベルセプト
  2. ゴリムマブ
  3. デノスマブ
- 3製品の先行品市場は約1,600億円※ (24年9月期薬価ベース)
- 既存BS２製品と同様に競合他社に遅延せず1st上市を目指す

BS販売に向けて

- 収益最大化のため、自販もしくは領域に強い会社との販売提携も選択肢
- 1st上市により臨床研究等、国内BS普及に向けた活動を推進
- ニーズを吸い上げ付加価値製品を模索

BSに関わる政策等の後押し

- 厚労省がBS普及促進のための目標値を設定（29年末までに60%の品目でバイオシミラー置換え率80%を目指す）
- BS国内製造の支援策を実行中

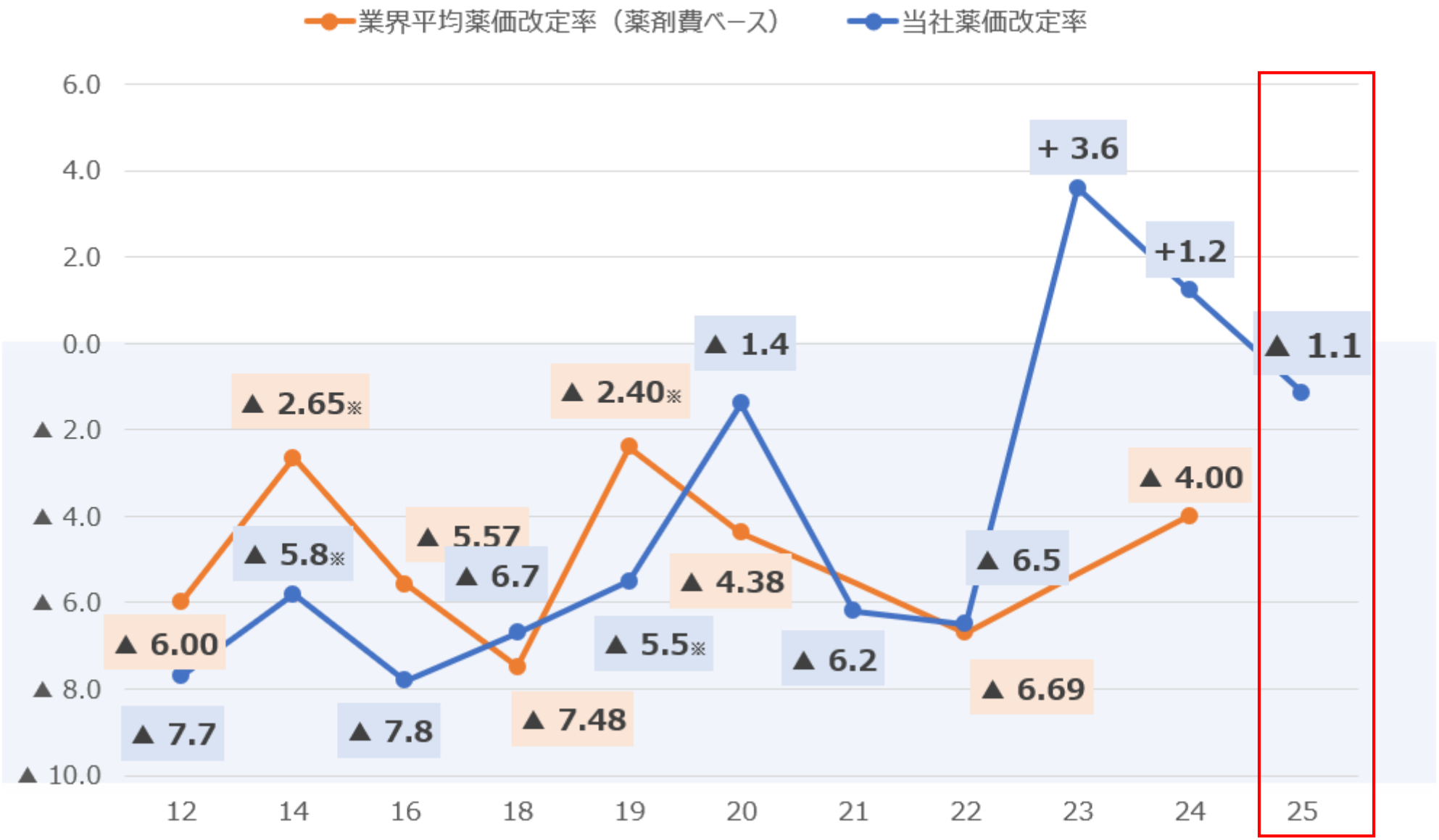
参考 旧領域別 売上高

(単位：百万円)

	23/9期	24/9期	25/9期	前期比	
	実績	実績	実績	増減額	増減率
急性期医療	15,380	17,131	**17,633**	502	2.9%
女性医療	18,004	20,327	**21,681**	1,354	6.7%
海外事業（OLIC社）	3,467	4,213	**4,186**	▲ 27	▲0.6%
その他	4,036	4,465	**8,176**	3,711	83.1%
合計	40,889	46,138	51,677	5,539	12.0%

※本資料は2025年9月期まで掲載
※海外事業（OLIC）は連結調整後の金額
※25年9月期決算より新中期経営計画資料内（2024.11.25リリース）にて示した新区分 (女性医療、バイオシミラー、CMO、その他) をp4で開示
※「アナストロゾール錠」、「レトロゾール錠」、「アレンドロン酸錠」といった旧区分で急性期医療に分類されていた製品をp4領域別売上では女性医療に分類
※旧区分で女性医療領域に分類されていた製造受託については、CMOに分類

薬価改定率推移

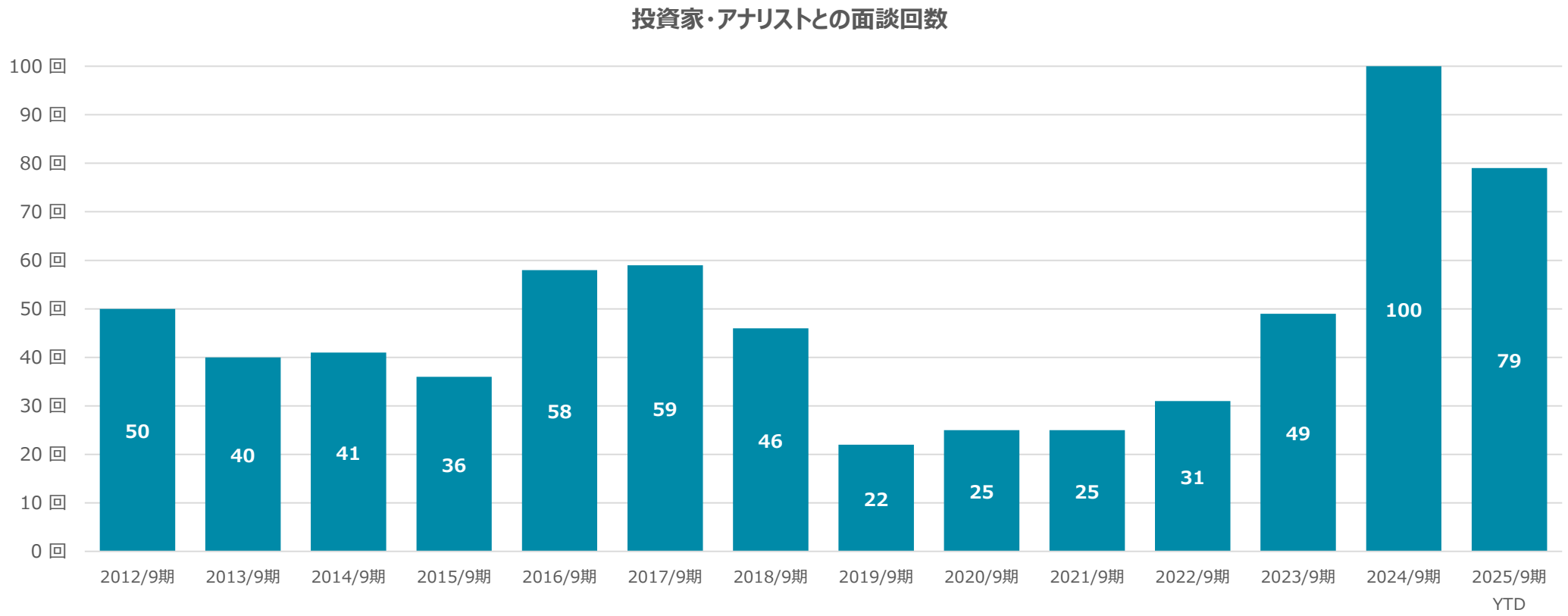


中間年改定のため業界平均値なし

為替の影響

種類	予算レート	取引	影響
米ドル	144.0円	仕入	1円の円安で約22百万円の売上原価増
ユーロ	171.0円	仕入	1円の円安で約16百万円の売上原価増
タイバーツ	4.3円	連結子会社	0.1円の円安で約145百万円の売上増 0.1円の円安で約22百万円の営業利益増

IR活動サマリー



- **注目いただいているポイント**
  - 領域特化型のビジネスモデル
  - 女性医療領域の今後の展望、成長ドライバー
  - バイオシミラー事業の進捗、今後の展開

参考情報リンク先

2024年10月2日

長期ビジョン2035

https://www.fujipharma.jp/__upload/c58cace2296373d137e176fb305bb0e7d81e771d.pdf

2024年11月26日

中期経営計画

https://www.fujipharma.jp/__upload/JP_MidtermBusinessPlan2025-2029.pdf

2025年5月14日

25年9月期第2四半期決算説明会

https://www.fujipharma.jp/__upload/JP_FY9_2025_2Q_InvestorMeetingMaterials_20250514.pdf

予想および見通しに関するご注意事項

本資料に記載の業績予想及び将来の予想等に関する記述は、資料作成時点で入手した情報に基づき弊社にて判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。予告なしに内容が変更または廃止される場合がございますので、予めご了承ください。また、本資料に含まれている医薬品（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

連絡先

富士製薬工業株式会社　経営戦略本部　経営企画部　コーポレートコミュニケーション課

E-Mail fsk_ir@fujipharma.jp　URL https://www.fujipharma.jp/

FujiPharma